

# 人権なら

2018年1月1日

第85号

NPOなら人権情報センター

●ひと・まち・生き生き

## 組織のあり方をめぐり論議

### NPOなら人権情報センターが第17期総会

NPOなら人権情報センターは11月25日、三宅町中央公民館で第17期総会を開催。役員および各支局の代表が出席した＝写真。

当初、6月に開催予定だったが、これまでの課題を整理するには時間が必要だとして、6月10日の理事会・支局長会議並びに「会計決算報告の開示義務化実施のための定款変更」の承認を求める第17期臨時総会で、延期を確認。この日の開催となった。



総会は植村照子・理事長が「課題解決に向けて力不足を感じ、反省している。皆さんに知恵と力をお借りして諸課題の解決をめざしたい」とあいさつ。議長に植村理事長を選出。議事録署名人に南岡彰男さんと森田明美さんを選出。議事を進行した。

議事に移り、2016年度事業報告、同収支報告、同監査報告の3議案が提案され、採決。続いて2017年度事業計画(案)並びに当法人の当面する課題と、同予算(案)の2議案が提案された。

質疑では、数人が意見を述べた。NPO職員のほとんどが60歳以上となり、今後の事務所の運営に不安があるとの指摘のほか、組織のあり方や支局の活動について様々な意見が出た。

これらの意見について、今後、役員会・支局長会議などで議論を重ねていくことを確認。すべての議案を採択して終了した。

## 中企協が申告相談会

奈良県中小企業者協会(山下力・会長)は12月16日、2017年度確定申告説明会を開催。申告相談会は2月7日から22日まで、支局会員を対象に下記の通り、開く。その他の会員には2月23日から3月9日にかけて実施する(詳細次号)。



日	時間	会場	対象支局
7 (水)	午前9時半 ～午後3時半	川西町東人権文化センター	川西
8 (木)	午前9時半 ～午後3時半	石ノ上コミュニティセンター	石ノ上・市場、御経野、嘉幡
9 (金)	同上	同上	同上
13 (火)	午前9時半 ～午後3時半	河合町心の交流センター	河合・上牧
14 (水)	午前9時半 ～正午	若井人権交流センター	平群・生駒
15 (木)	午前9時半 ～午後3時半	杏南町老人いこいの家	奈良
16 (金)	午前9時半 ～正午	五條市人権総合センター	五條
	午後2時半 ～午後5時	西部文化センター(市場隣保館)	大和高田
19 (月)	午前9時半 ～午後3時半	西田中町ふれあいセンター	大和郡山
20 (火)	同上	同上	同上
21 (水)	午前9時半 ～午後3時半	三宅町上但馬団地解放会館	三宅・田原本・吉野郡
22 (木)	午前9時半 ～午後3時半	三宅町上但馬団地解放会館	山添・宇陀・高取・御所・直轄・その他の地区

## 京都・崇仁の歴史を学ぶ

### 田原本町企業内人権教育推進協が現地研修

田原本町企業内人権教育推進協議会は10月24日、田原本町庁舎で第2回役員会を開催。2017年現地研修会を11月10日に京都市崇仁・柳原銀行記念資料館で実施することを決めた。当日の現地研修には10人が参加した。



柳原銀行は明治32年に柳原町(崇仁)の町長だった明石民蔵ら地元有志11人により設立された。被差別部落住民が設立した日本唯一の銀行とされる。当時、差別のため、資金を得られなかった町内の軍靴製造業者や皮革業者らに融資を行い、産業の育成・振興に大きく貢献した。また、その利子を地元の小学校の運営資金や、道路整備の資金に充てるなど、自力で差別を撤廃する模範とされた。

大正期に山城銀行と改称。事業を拡大したが、金融恐慌などの影響を受けて昭和2年に倒産。建物は借家として使用された。だが、道路拡張に伴い、取り壊し案が出たのを機に、まちづくりのシンボルとして保存に向けた取り組みが盛り上がった。

建物は明治後期の貴重な洋風木造建築物であることが京都市の1989年の調査で判明。1994年に京都市登録有形文化財に指定され、移築、保存、復元が実現した。1997年に資料館として開館した。

資料館では、設立の歴史や展示物の説明を受けた。このあと、いきいき市民活動交流センターに移動。崇仁自治会の菱田不二三・副会長から地域を含めた学校運営や教育連携、祭りの山車の再生の取り組みや、その山車で隣の朝鮮人部落を訪れると涙を流して迎えてもらい、今も交流を続けているとの話を聞いた。

また、中学校統合計画が発表される中で発覚した差別事件を機に交流を盛んに行ってきたことが話され、地域ぐるみの教育との関わりについても話を聞いた。

## 「架け橋美術展」で100点展示

第33回「架け橋美術展」と講演会が11月28日、東大寺総合文化センターであり、多くの人々が訪れた。「架け橋 長島・奈良を結ぶ会」と「差別をなくす奈良県宗教者連帯会議」が共催した。

美術展は陶芸品や絵画、書など約100点を展示。作品は岡山・香川・熊本にある4カ所の国立ハンセン病療養所入所者が制作した。



講演会は畑野研太郎・国立療養所邑久光明園・名誉園長が「ハンセン病・ハンセン病問題・差別の克服について」をテーマに話をした。

### 人権を取り戻すため、闘い続けてきた

ハンセン病は今では完全に治る病気。国内での新発症は減少し続けている。年間、10件を下回る。だが、世界では毎年20万件程が報告されている、と説明。

また、ハンセン病とはどういった病なのか、を説明。国立療養所邑久光明園で勤務してきた経験とともに、ハンセン病を患ったために、診断された瞬間から社会から排除対象にされた。菌を排出しない少菌型の患者までも、1931年に制定した「らい予防法」で、絶対強制隔離の対象とされた。家族を守るために縁を切り、戸籍を抜いて入園せざるを得なかった。

病気療養とは名ばかりで、施設を運営する業務をすべて課せられた。末梢神経障害や視力障害というハンセン病の後遺症を抱え、過酷だった。1996年の「らい予防法」廃止まで続いた。

それでも、「彼らは黙って消えていくことはありませんでした。人権(人間)を取り戻すため、闘い続けてきた」。①怖いのは無関心②社会に生きる一人ひとりの人権意識③偏見・差別を生むスティグマ(負の意識など)、を指摘。大切なキーワードは「エンパワーメント(困難さを越えていく力)」である、と話を結んだ。

## 吉野川と街道沿いに集落形成

### 県民歴史講座で上市・飯貝をフィールドワーク

県立同和問題関係史料センターの第5回県民歴史講座が11月14日にあった。「上市・飯貝の歴史と生活文化」をテーマにフィールドワーク。コースは大和上市駅－近鉄吉野川橋梁－沢井寺－上市の町並－事代主神社－伊勢街道－立野の町並－大名持神社－吉野川－本善寺－飯貝の町並－水分神社－吉野貯木場跡－美吉野運動競技場跡－吉野神宮駅。案内は奥本武裕・同所長が務めた。



上市・飯貝の地は中世以来、吉野川と街道沿いに形成された集落。下流の下市とともに、吉野川流域の人や物の往来の中心地として発展してきた。かつて上市の市場は吉野川の中州にあったと考えられる。中世の市場は集落の領主の支配が直接及ばない「無縁」の場所と観念され、中州も無主の地であった。

### 人や物の往来の中心地として発展してきた

上市の趣のある町並み(写真)を過ぎ、事代主神社(恵比須神)へ。ここは古くから「蛭子社(えびすしゃ)」と称され、上市の市神として信仰を集めた。立野は江戸時代中期まで筏の乗り継ぎ場であり、上市から続く伊勢街道沿いの宿場町であった。本善寺(浄土真宗本願寺派)は本願寺第8代蓮如が明応5年(1496)に建立。12男の実孝を住職とした。江戸時代には、西本願寺の門主一族(連枝)が住職を務め、吉野地方の中心寺院となった。

飯貝の町は門前集落として発達。県営吉野貯木場跡は明治9年(1876)に吉野組材木産業同盟(後の吉野材木産業組合)がつくられ、飯貝・下市・霊安寺(五條市)に材木検査所、和歌山・大阪の港には開所が設置され、吉野杉の集積地として賑わいを見せた。

## 京都・南山城を歩く

### 反差別・人権交流センター絆がフィールドワーク

反差別・人権交流センター絆が11月18日、「京都・南山城を歩く」をテーマにフィールドワーク。19人が参加した。コースはJR上狛駅－上狛大里集落－上狛惣墓－高麗寺跡－新在家集落－泉橋寺・石地蔵－泉大橋－伝和泉式部墓－JR木津駅。案内は吉田栄治郎・天理大学講師が務めた。



この地は大和と京都を結ぶ街道が通り、木津川が流れ、淀川へ通じる水運の要所。舟や橋を使い、モノや人が行き交い、上狛の町はその玄関口として形成された。古くは奈良・興福寺の所領。室町時代に狛氏が勢力を伸ばした地。近代は茶の集散地として栄えた。

### 上狛新在家集落は山城茶発祥の地

上狛大里集落は戦国時代には狛氏の城下町。今も環濠が残る。上狛惣墓(写真)は木津川を望む丘陵上にある。共同墓で、敷地内には行基供養塔がある。周辺には三昧聖の集落が存在した。高麗寺跡は飛鳥時代に高句麗僧、恵弁によって建立されたという。鎌倉時代初期まで存在。遺構があり、今、整備が進む。

新在家集落は山城茶発祥の地。江戸時代、山城南部の上狛では木綿生産が盛んだった。インド綿が輸入されるようになると衰退。代わって茶の生産が始まった。町並みを歩くと茶の香りが漂う。

泉橋寺は浄土宗。本尊は阿弥陀如来。行基が天平12年(740)に木津川(当時は泉川)に架けた泉橋を守るため建立したと伝わる。前を大和街道が通り、多くの人々が往来した。洪水の時は待機。寺は宿所の提供や病人を世話した。平安時代には門前付近に非人宿(狛宿)が形成された。細工の住む集落(のちの穢多村)も生まれた。門前に巨大な石地蔵が鎮座。木津川を渡り、伝和泉式部の墓へ。あと、交流会をもった。

# 『話しのごちそう』で集い

## 映画「ある精肉店のはなし」上映とリレートーク

「話しのごちそう」・映画とリレートークの集いが11月18日、リバティーおおさかであった。第1部では映画「ある精肉店のはなし」(瀬瀬あや監督=写真)の上映。第2部では「話しのごちそう」リレートークが行われた。

映画「ある精肉店のはなし」は観るたびに感じ方が異なる。終了後、会場に拍手とともに「どことなく暖かく、優しい気持ち」が広がった。



この映画は大阪・貝塚市で北出さん家族が「牛を育て、屠畜し、その肉を販売」する小さな精肉店が舞台だ。NPOなら人権情報センターの総会でも上映した。

第2部は、13人がリレートーク。瀬瀬さんは「全国50カ所以上、46都府県で自主上映、約60の映画館、イギリス・ドイツ・韓国での上映、文化記録映画賞の受賞。そして映画と共に旅をし、多くの人たちと出会ってきた」と4年間の歩みを振り返った。

つづいて、それぞれの立場から発言。三宅亜紀・愛

### 編集後記 ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

2018年を迎えた。ことしはどんな年になるのだろうか。今、私たちを取り巻く政治、経済、社会状況は極めて危うい。多くの人々は将来不安を抱えながら生活を送っている。貧困や格差も深刻だ。富を追い求めるのではなく、分かち合うことが大切だ。不平等や不公正は改められねばならない。でないと、対立を生み、暴力や戦争に発展する。地球環境もこれ以上、悪化、破壊させてはいけない。政治や経済や社会のシステムを変革することが必要だ。いつまでも経済成長を求めるとはなく、持続可能な社会をめざしたい。生きやすい社会を築くために、まずは各人が意識を変えたい。

農学園高校教員は「いのちとたべるを大事にするには死と生(いきる)をあたりまえだと知ることだ」と思い、この映画や北出さんとの出会いとお付き合いが始まった」

栃木裕・全芝浦屠場労組副委員長は屠場に対する差別と向き合いながら、「屠場全国交流会」活動を行ってきたことや、「殺す」という言葉にこだわってきたことを。北出昭さんは「地元では殺すとは言わず、<牛を割る>と。九州では<解く>とも…」。岡本栄治・解放同盟貝塚支部書記長は「映画を撮ることで、地域や人が映り込むわけで、どう観られるのか、心配があった」と語った。



この集まりを提案した北出新司さんは「腹をくくって始まった撮影を通じて、自分も家族も変わった。監督自身も成長されたように思う」と感慨深く語った。瀬瀬さんは「屠場見学会での衝撃と映像を撮りたいとの情熱、そして覚悟をもって始まった撮影。感謝の思い」を語った。「同窓会」のような集まりで、楽しかった。

\*\*\*\*\*

## ■ ひまわりマフラー織り体験に挑戦

「手作り工房 七彩屋」の「ひまわり織り体験・チャレンジコース」を12月6日～8日、体験。マフラー織りに挑戦した。「整経(たて糸を整えること)」「長通し」「ヘルド通し」「巻き上げ」など、作業工程を教わりながら、内職や、さおり織の作業をしているメンバーたちとも楽しく交流した。



### ニュースレター「人権なら」

発行:NPO法人なら人権情報センター  
〒636-0223  
奈良県磯城郡田原本町鍵301-1  
TEL:0744-33-8585/FAX:0744-32-8833  
E-mail:info@nponara.or.jp  
http://www.nponara.or.jp/